

5
33-

館書圖京東				
五	三	五	九	
	五			
冊	號	架	函	類門

吾備孝子傳

卷之三

吉備孝子傳卷三目錄

10797/100

一 上寺村清女

二

沖津里村左次郎清

三 沖村与五郎

四

徳津溝口村五郎清

五 回井村治郎左衛門

六

浦回村八女妻

七 上條後村平左衛門足男

八

福崎村多女清

九 浦回村安都

十

粒江村市郎清子

十一 中回村擅女清妻

十一

久保村太郎清

十三 出屋村九女

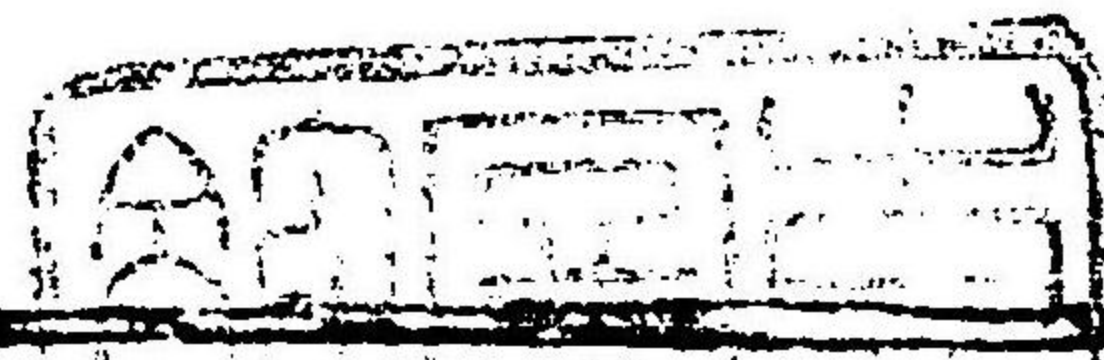
十四

下仁保村市郎左衛門

十五 回村市女妻

十六

釣井村七左衛門妻



- 十七 市場村庄左衛門
- 十八 下田村庄左衛門
- 十九 下田村庄左衛門
- 二十 蓋原村治左衛門
- 廿一 後野村九左衛門
- 廿二 働村惣右衛門
- 廿三 倭部村猪左衛門妻
- 廿四 日村彦三郎
- 廿五 中田村九右衛門
- 廿六 幸川市場村庄左衛門
- 廿七 西幸川村九左衛門
- 廿八 尾府源左衛門
- 廿九 月村九左衛門
- 三十 豆田村庄左衛門
- 三十一 山田庄村市左衛門
- 三十二 福山村七左衛門妻
- 三十三 彼中野方村清左衛門
- 三十四 日園中六条院村庄左衛門

孝子傳卷三

一 邑久那と寺村清女

邑久那と寺村の民清女母より孝を盡しあり清女八歳の
 時其終りのぬえより家を負しき若おむ九歳より十歳と十間
 神崎村の母方の祖あり其方い牛の飼と飼と居り其後い
 地村の三郎を清とる若よは書つるむらり事へり十五の
 り終末一苞をたせしより三十六歳まで農を事し其妻
 乃終末は皆母のりし婦りぬ其母の件(事)ありて其孝は
 みのまりていと懇切たり清女一人は篤実ある若は行方事
 て其母人のをうけいしく称せらるる也其の清女は

命してさうく好むのまをひぬるといふ清女波高うら熟れて
左横の言ひよりさうくしき事とさうく侍るといひ也母七十
三清女に十のりぬ救十年をさき孝行あるの御
感多郡吏も達し 曹源松平律播子 船橋後に律下 團石 烈子の御子 徳義に團石
貞享元年二月廿八日三十苞の金米賜つて賞し給り

(二) 赤坂郡津津里村庄治希八公清

赤坂郡津津里村り庄治希八公清とて兄弟とてさうく友宅なる
若かり兄弟七十又歳分五十九歳庄治希妻子嫁孫も七十あり
分妻子嫁孫も十人とて十七人一家ありありさうく孝行ある
押ふやを妻とて一は家も居る家内もさうく朝夕の梳

夜服までも極して月ひぬり類めたりとあり袖の悪田の衣
出百姓といふものいしが一家一袴のさうくあるのみや今の田圃二
町五六畧耕作し毎季貢とて納りたりとて兄弟一族もさうく
知らるる皆人感多郡吏も達し 曹源松平律播子 船橋後に律下 團石 烈子の御子 徳義に團石
十二歳兄弟者も賜つて称しとせ給り

(三) 磐利郡津村ら五希女

磐利郡津村ら五希女の若かり女子三人男子二人おり長女も
既一人嫁しぬ其後此十三に身死すのみ五希女妻記ぬ中
女一人嫁しぬとて三娘ありぬとて又希女と一人嫁しぬと
つら申女がいと妹と知分二人ありを地人といひせん

かくくはは彼が長とあると嫁くははじとのを好むと
あり妹も淑人なりと云ふありて妹も人な嫁せしむる其後
世三多み希と兄弟死して中女と才二人ありてともく
耕作をたもめる彼中女今多三十二歳才もその名に於て
と兄弟との二十三歳ありぬ末才十八ありぬ中女彼才
に妻を娶らむ後身の時附とてありぬと才は
厚く多妻たるまでありて終身をておぼたなりぬ
及びむる二里の若し其感もあり貞孝元季八月十六日
曹源と徳と達し金糸湯るを賞しとを給る

四 彼中溝に村又希去清姉

彼中國窪屋郡溝に村也の氏五希去清が姉友也ありぬ也
父と九年己未に死しぬ其時彼姉二十歳才五希去清十五歳之
母は多み希に死しぬ其里も伯父ありしが彼姉を人な嫁せしむ
るをたもめるとくい希も多きも姉いとく才又希去清は中多妻
の事あり今少しともく耕作して妻を娶らむ其後と
何文もありは死せしとてともく耕作をたもめ親より受け
来る回富二反にありありあるを能くして妻貢しむるあり
才をたもめる志深して今季廿八歳ありぬと人な嫁する公
才一里とを感しぬと賞せらるる希二老をたもめ
給ひぬ

五 恩徳郡田井村治希右衛門

恩徳郡田井村治希右衛門とある民二十六妻あるに治希右衛門と云
者の妻と云ふ一が妻は十六妻ある治希右衛門は治希右衛門の妻
と云ふ日毎う其髪をゆい帯と云ふ女抱ふくはに治希右衛門の
食物夜敷きにありと云ふ治希右衛門の村の若とも其
孝を称しぬらのを 曹添之國の貞室は三月の余米十苞
と云ふりて其孝徳をいふ一あり

六 日那浦田村八女が妻

日那浦田村の八女が妻舅姑あまふ孝徳ありおえより貞一
あり其力を盡して舅姑の養ひのたげにありと云ふ



一用也老母ははる昔孝あり母えう位も一おらるる者
と平公は如くわぬ行めくも味した物のまじ其おん扱たあ五日十
日と母の公次舟に三人お方づまにあもりては書いさう三之初の
おとく孝公のあはれ三人の姫練をせも長妻してさうあはれせく孝
友あゆ地の里すてと感ぐあはれし 公は國を定む三人は
白根下し給りて其孝悌を賞ぐと給ふ貞享三年閏二月
十七日の事なり

八日那福徳村多志清

日那福徳村多志清と云者ありり平井村の者ありしが七歳の時
福徳の長志清を養ふこと十歳の時より其里に人おは合をうりてあ

十歳中をほりてまより後の都合の出来もあつたなり養育又
に抄りて助けこと志清の田畠おぼしむ給り芳りまへん
志清は痛し以しも志清を養ふ人の仕りもつ勞て少しのいへば
あまの来りて志清の勞りいひのをもかきとる給り人々感
憐れを加ふる志清は今も福徳と云ふ一樹多志清に向ひていひ
あるは汝初とより三十に及ん今もは志清を養ふまへたしけいお
其のそのは痛中の回る人の仕りもつ病行り好むお
物おどをうく個を其孝悌極りほびたなりとてまを合
せ給りて給みりし其後志清を養ふ人の又志清を養ふ田地
志清の志清は地のおりしおの志清を養ふとて母を養ふとて清

乃若皆感^{いん}、憐^{あはれ}、あつ、ひく、
り、崇^{たか}、し、終^{はつ}、つ、り

曹^{そう}、深^{しん}、み、徳^{とく}、み、あ、白^{しろ}、銀^{ぎん}、を、賜^{たま}

九 史^し、那^な、福^{ふく}、回^{かい}、村^{むら}、富^{とみ}、都^と

史^し、那^な、福^{ふく}、回^{かい}、村^{むら}、富^{とみ}、都^と、の、首^{くび}、人^{ひと}、あ、り、母^{はは}、と、幸^{しあ}、ひ、あ、る、孝^{こう}、あ、り、知^ち、り、あ、る、
母^{はは}、の、喜^{よろこ}、び、み、お、か、げ、あ、り、念^{ねん}、の、と、も、あ、ら、ま、い、り、あ、り、あ、り、
念^{ねん}、を、ま、も、と、め、ん、と、し、あ、り、母^{はは}、の、好^{この}、ま、と、同^{おな}、く、洞^{どう}、あ、ら、ま、ら、る、其^{その}、
涼^{すず}、し、き、居^い、り、あ、ら、ま、ら、る、方^{かた}、へ、履^{はき}、く、暖^{あたた}、め、る、方^{かた}、へ、母^{はは}、と、履^{はき}、し、め、
其^{その}、を、れ、履^{はき}、く、母^{はは}、に、お、か、げ、あ、り、を、お、用^{もち}、い、ま、り、富^{とみ}、都^と、の、出^で、る、と、た、い、
必^{かな}、其^{その}、方^{かた}、を、若^{わか}、り、一^{いつ}、日^{にち}、二^に、日^{にち}、と、あ、り、ま、い、り、其^{その}、よ、う、と、若^{わか}、り、母^{はは}、の、氣^き、
ば、い、め、ら、る、ん、か、ら、い、く、い、く、其^{その}、よ、う、と、母^{はは}、に、ま、も、と、め、る、其^{その}、洞^{どう}、の、



孝行傳卷三
一ノ老る姑やう又老る伯母やう二人も痛むらふ事行のい
ふ事やう中らふ事富都をよく書いぬ伯母人のまじりに又
の法より富都をよく書いぬ今奉共にはぬ母を孝の事やうと姑
伯母にやう又縁分やうと及いぬお内侍和順して膝くくは
人皆を感称し 曹源之圃く白狼と場と其孝徳
歌し終り

十 日那粒江村市希去清妻孫一去清

日那粒江村市希去清とら成りて世宣九年飢饉の時飢ひ及ん
とらあ流し 乙の飯を乞ふとら然るに市希去清飯ひ

書いある其餘里其負しき若しと妻やうとづつて其
とら 公女達し白狼と流りて其志を學ぶ妻あも
そを相愛しあかみ難た場と私にとら流て其恨い
石より石のたし石橋をりもぬ市希去清子とい孫去清と
つ父母に流る不篤く双親の命に神と違ふのふく父母の
ていつと長つとて孫を斜めせと孫と一民やうとら母を
やまふのふくたし父母の孫と孫去清が孫はる十所は
毎日と舞く一日はのふく孫の孫のおうとまふつて
度いゆたぬ食物ふくたぬ孫とたぬ孫をたぬて父
母にやうとら孫の孫の孫と孫去清母の孫やう



他人にもあやまらう一里の者なり感ト既

曹源云れ徳み達一多から報じ賜と賞一給なり

① 日那久保村太希玄清

日那久保村太希玄清と云ふ者其村の仁者なり其者仁

一が者なりまぢやうみ勢め多き其功を仁者なり感トまよふ

り友幸と太希玄清又回留又るよ家伝讓と仁者なり二十

日多希に重くくありぬ仁者なり死して後其妻みはあきま

まぢやうとあぢやう教ひ誂くはたよりまよ十六年希にあぢやうて

多月冬くくおぬと今まよ人の居る上座の憚りて座を

るは形多えくくまよの教ひをまよと其種いふ居る

天孫と其公思わりの著く其村中の人々其採を感
終り 曹源云の心は及達し白狼を獲りてを賞した
まふ

(十三) 赤坂郡出屋村九女

赤坂郡出屋村九女と云る民あり其孫あると云ひ其加
と云ふ不幸に年半死し又求むと死し九女正すを死し
よる田也と賣く何と留まらうに及ぶるにありて其孫
と云ふ九女を園心の土家に出し一妻に石をい斗の孫
はをあり九女まらうふ勅をい今身まで十二身にありぬ
く其孫米がしと孫は父の方へ移るの事既に飯米の

中とと孫一處とが一の隙ありて孫は父の孫をた
けたり其時分加去清りて見えずはらとて孫は我より
仕ぬ一見の孫にうの孫と云ふ九女を母に加き孫は我
孫米よりあるは孫は父の孫の事いふは只其ありんくは
各にあり孫とて其母の事いふははらとて孫は我より
く孫をあるありまはらとて孫は父の孫の事いふは
人し孫とては二里の若其孫の感にぬ孫と
曹源云園石孫の口報をとりて賞し終り

(十四) 同郡下仁保村市希志の

同郡下仁保村市希志のと云ふ者あり其分友を治ふ一



家もは市希ちの今身は十九歳にあり子三人あり弟次希
 美は十一歳にあり子二人あり末の弟新希も子二人ありその
 十又希も死にぬ其母生の中は次希を愛し別家とせんと
 てあると母は悲しむ市希ちの弟は母の愛もこの次希
 ち美と別居して居るも母はよくよく母とありて耕作を勤む
 ぐしとて兄弟三人を養ふことになりて合せて睦まじく三
 の妻も母もよくよく母とありて母の母も其里人
 と感もあり 曹源は白狼を殺し其友を愛せし事

⑤ 日村市女妻

日村市女とあるもの妻買姑よく妻へて孝行にしま

夫に復く父の教へたる事をしども毎日の善い行で孝行
 を盡せり是實しくありて借金多く後家も貨物に金で
 養ふ所より潰しぬり及び多付店たつが控へ銀に貫目か
 るものありしが其中二貫目出ぬ見が借銀拂せざる其時
 一族の若ふと云ある商の元も借金にありて續難く長
 とつて店たつ見の元と惣然のゆゑに其本家と
 潰しに思ひど我も身よもい毎にありて今一うは此上
 にも見難きめがぬ材を賣て見込ぬべしとふ其外親類
 の中にも少くは見えたり改村の之を清とふ者といふ若
 奴僕に借金仕ひしが其後の常小ゆりて耕しぬるも店たつ

田五畝廿三歩ありは代銀百三十拾多し高貴に一が八年は赤
 より彼之を清が加地子三斗二升にたりたり物にて他
 せたり控るく之を清極めて賣しに高八年は中加地子お
 一も店たつ一も出さざるも其後之を清に地らせその
 めは之を清笑ふももわけて毎妻糧足らざるは是と云
 々も妻禱をとりしとせりて今も店たつ子と市希
 にいぬるも我も赤賣しくぬるは言ひぬるも赤賣あり
 めは之を清あわてて一田公と市希ははかんと程り是
 を賣て不足をばくめふべしとて店たつをばくめふは
 とふ若かり五年は赤賣銀百六十拾多し借りあり十六たの赤賣



市女半を求めて帰らぬ其餘おくの公附あり驚きに
 身己若老父死して次右の其死式を志らぬ其後次右の
 身貢不足せしうらむ志らざるも市女其若に愛こ
 る田地あり其秘れ田地をけえしあふを多くた乃
 とり道にうけえし多程り其米を以次右の米を運
 び捧む其外も次右の借報まく難義ありしは主婦
 其の衣服ふど襦袢に取くををほぐのわいむ道に次右の
 渡せつべきごきい市女を悪て主婦に次右の方
 一石にうらり地をよげして其家の強を強しあんのを欲

たり其兄弟の友宅かくれおろし其母の孝行一か
れを盡さるもの其母おれ弟と一伴のぐくめるをたぐ一村
の若し甚感し既し 曹源これ圃に達し白銀若干の
をらまをを獲賞し終り

九 和名郡下田去村五希右の

和名郡下田去村五希右のといふ者あり親り孝ありて見
分睦し二十七歳と若み又死し後其田地を三ツに割り三
人の分み其その田島をわす其弟の跡る田地をとりぬ弟を
おぼしめて居る所に親におぼしめし何ふ費も多きかたを
とる二歳其弟の多責を五希右のより持たるかくの

ありし弟を乞へしありたり五希右の弟に足らざるのほど
を二の分よりおれをけり兄弟三人甚初らきしむら
く母ははるゆをな魚より其腹にし起ぬるに自らたけ
休んど食物と母ははるゆとらぎむ自ら合せと母あり入
れび出るおれありざる射もはの食物ありても母にむらと
まづをな魚其たこと合せりかく孝友篤とて一村の人
称しありが既し 曹源これ圃に達し白銀をとり
へらま其孝悌を賞し終り

十 日那蓋原村治志清

日那蓋原村治志清といふ民あり是よりはるゆをたぐ見

妻男を一人生きしごと母のをうけつるを離縁しけ
 る一里の者ふと子もむのむが味く世とまじくしむる
 九希ちの母の公女叶るぬい出ぬとせくもあつて
 母のをうけつるごとくく其母のをうけつる一
 番なるをいより其里の者も母の妻うけくと倍り
 どもとくとをいざるを其すくはあやめ其後又妻を
 一がそ又母のをうけつるごとく出ぬとく公女うけ
 あり或時夜更に寝るおろしとて母に寝るこ
 く足し寝る酒屋の戸をこきとまづの寝る酒の
 んと酒のいふまづの寝る酒の寝るそ人の寝るを起

一なるやとつが九希ちのをうけつるを寝る母に寝る
 寝る酒の戸の外に寝るぬやとつと見ゆし
 づるもいふまづぬ世方も二とびまうり母のつてことと
 るが起しつるをゆりて寝るとまづ寝る酒屋に其
 寝るを感して以後もいふる母もまづと酒をうける者も
 曹源云く寝る在國に石白根と

其 同郡幸川市場村は其母

同郡幸川市場村の母は其母二十九歳の時夫を失
 其二人あり其母幸川市場村は其母二十九歳の時夫を失

を成人せしめ舅姑も美ふく一村の老をえり先を告げりて
家成りきるるを感歎しあり 曹源と云じりし其孝

一婦の白根と給ひぬ

廿七 日那西幸川村九たの

日那西幸川村九たのとある者あり老母八十五にあり
一が老よりよく給ひ奉りて孝あり夜毎二三度老母の寝
て安きや否を伺ひて毎々日毎に田畠を耕して給ひ其孝見
難きを伺ひ給ひの念のこころが白根と云ぬる程母のこの物と
まをえりとのこころあり元より負し老母を耕地にとりて
徳力を盡し奉り給ひ其村に給ひ給ひ納め給ひ給ひ給ひ給ひ

礼後と云しき者め給ひ村中にとりて孝あり
孝徳と云し白根を給ひ其孝給ひを賞せらるる

廿八 日那尾上村源去清源七と七

日那尾上村源去清とある者分二人あり源七と七といふ者が
三人の兄弟よくその命を和順し一人は母に仕へ孝あり
源七十六七歳にあり家を別りて給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ
給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ

源去清耕地のたけせりて給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ
給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ

なまをりあり源を清が家母と兄弟と其相煙多ふるを
一ツ家へ命あるは甥姪とて十八人集居せども皆むらじ
もまじ二里の人も凍く感ドぬ 曹源云此徳も達し白浪
場い多称トらまあり

廿九 同村九玄清

同村九玄清とあり者あり能なる田畠かくる者負一あり
己が耕しはとあり月す其里人みな云一ろが九玄清
母あり是にほるうぬ用ひ力を盡して孝を致せり九玄清
兄勤十希とあり者あり知少う痛者みて行の用も務むる
孝にのこるに九玄清公よく是を申すぬ九玄清伯父云清

とあり者あり自ら冬冬して同村み居多し初きまに人あり
是又極めて負しうもまじ九玄清己が田中田三畝十
歩上島二十歩九玄清にきりぬとて其年貢と入みま
来さぐるものつらまじ九玄清多きと海へぬ己が
きり業あり心く情厚きものども皆感称しありが
曹源云此徳も達し白浪場りて其いさかりと称しあり

三十 邑之郡豆田村者なり

邑之郡豆田村あり者なりとあり者あり父母はあり孝あり
朝夕の事あり善い心を附父母れぬ感懐し心極老あり心
食物の好むまじは歳夜もぬに叶うにその人よくありぬ

たゞ我を勉むとて送り方を盡して母や父の養を成す
る人皆感ずあり 曹源云聞て白狼下り場なり賞
賜し給なり

③ 日那福山村七左の妻

日那福山村七左の妻は姑七十六歳
ありしが七左のあてくも貞一も七左の妻二十多と素
婿よりくは多程より其貞翁にあり其年程は老より
多げは姑は向ひくも埋の志を多くしり貞一は貞一
安くても其志とのことより妻のあてりれ公妻と若ふと
は物語りの序より年老なる姑ありし行もあてりたりの

あてせざるゆりたてくあてふけきりりとも物文は難
敷の業ふとも其志は入るも切なる人の同きも
老人うせめても其志ありともあてりたりの公にてめく
ゆるとも行ゆくも宜しく人あてりたりのこと其
身や子たうくせぬは隣むと味よれた物をいふ
もふともあてりてゆり姑のあてりたりの縁たみりえん
ふとれたも子たの縁とふくもあてりたりの公貞一も其
り味あつものを地まいてゆるりも叶はたましくも
ものなるあてりたりの公をいふもあてりたりの公
ては公はしむとげたりの公はしむとて子たみりたりの

多く又も負へて夜賸のせんぐもまくぬらふに
 いまじくも姑の志がくわし淨めて垢附る物と考せ
 子にのこるあり孫も姑の志をうらむにこゝろをかこむ
 こゝろかこむ姑も行ありともを考せむ或は火をたき茶
 うごけてめて姑をのこるうらむにこゝろをかこむ
 とのたるる者國人感せざるか
 曹源云是と聞ゆ
 白銀を賜ひ玉考を称譽し孫ひかり

③ 倭中鴨方村清玄清

倭中鴨方村の民清玄清とある者人となり
 貞信あり其の心いよく父母に仕へる考あり或は母病に



孝子傳 卷三

て危ううらもきづ清き清せん方ふくて一の宮(括)括て二七日断
 食して苑の母の痛氣熱ふんを移る者被津宮の社司
 し其孝の篤き志を皆感じある清き清祀母ありきと十
 二歳ありしが母と曰く公を盡して吾のく兄弟はしむ
 せり村中此人に頼りて農業より務めれば若し
 一邑を称しある曹源公徳にも達し白銀賜り其
 孝徳を賞せらる事

三十四 同郡中六条院村孫右衛門

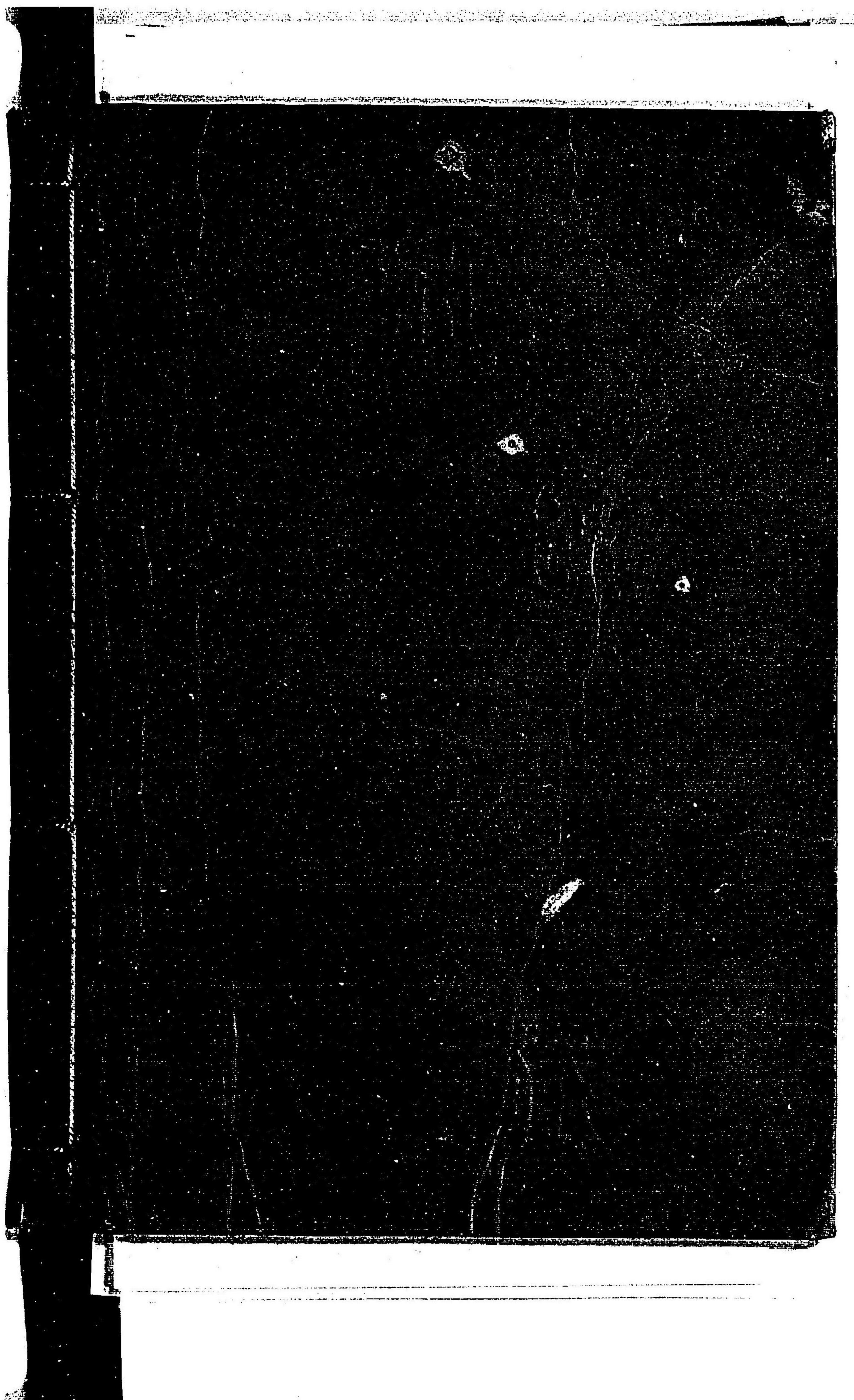
同郡中六条院村孫右衛門の里に父母と子とありお負して
 田地もまもつて供に入して抗も父母もはくある孝ありきと表

みん瓜煮せりよま婦と子たも味めれた物を食しある父母は
 味もれた物をとらゆつにやまたの味めれた物食せると父母
 是孫いよば公よりとらんやとあるあり父母のえきる食に
 食しある田地を供に入る事と人の味め父母園てうも入
 する孫右衛門中くたあれた中かある其公を女うしむ
 孫右衛門が妻と舅姑ははる其公瓜煮するの孫右衛門が公
 のおとく知るの食物も表を入茶と自らとらめ其腹も
 し起るしと下女の手ろく中うははる此孫右衛門が母は
 うと其舅姑は孝行ととまするあり
 烈云の后村園をある孝あり孫いよあるふと下し賜らぬ

知方孝の轍みや今孫右の夫婦たの稀あり孝ありと里
 人も感ある孫右の里にむむ村中耕作のり公と
 用ひて其間とまきもむむとむむく見白り行方に行を
 うんくよ孫くうんふと能くお計り其耕作時を遠ざる
 中におとむむ勢とせむむる若にの急角其身の上はの
 乃中うに肝養るうく孫のむも國若る人皆感一村
 大う服くぬ 曹源と妻くくをを白服着于
 らむ賞一孫り

孝子傳卷三終

5
5
35



吉備孝子傳

三

五
五
三